

今号の表紙 千葉喜彦『夜行性』(2005, 162cmx130cm, 油彩)

作者のことば

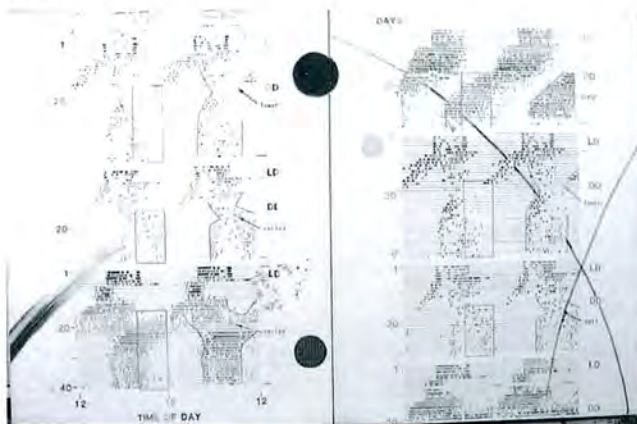
生命科学的現象を絵画で表現すること—私はこの10年ばかりこんなことをして遊んでいる。なかでも時間に
関係した部分に関心があるのだが、その意味では依然として時間生物学とかかかわっているといい。しか
し、主体はあくまで絵であって科学ではない。このような活動を *ars electronica* などをもじって *ars biologica*
と勝手に呼んでいるが、正しい言葉遣いになっているかどうかの自信はない。さて、時間生物学のなかで私が
関心を持ち続けてきた課題に「夜行性」があった。科学的表現を借りれば、これは「一日の環境サイクルの特
定の位相を選ぶしくみ」といえるものなのだが、こういう実もふたもない表現を超えて、「夜行性」には、おそ
らくアートの力を借りなくては表現できない何かがある。頭の中に雑然と存在する複雑な感情を絵画で表して
みたいと考えて幾つか作品を描いたが、表紙の絵はそのうちのひとつである。

千葉喜彦 (ちば・よしひこ) 1931年生まれ。山口大学名誉教授 (時間生物学)。山口県美術展、熊谷守一記念大
賞展、西脇市サムホール大賞展、青木繁記念大賞公募展、上野の森美術館大賞展、西日本美術展、三浦美術館
大賞展、MBC サムホール展など出展・入選多数。

<http://www.c-able.ne.jp/~y-chiba/>

Email: y-chiba@c-able.ne.jp

他の作品から



「1日の時刻」(1998, カーボン, アクリル 182×117cm) 「籠りと復活」(2006, 油彩 162×162cm)

編集後記

- 今回は、第6回の学術奨励賞を受賞された小柳会員の受賞論文と、第15回学術大会で開催されたワークショップ「様々な時間軸の生態リズムと生物多様性」のシンポジストの先生方に総説をご寄稿頂きました。概日リズム以外にも、概潮汐リズム、超短周期の現象、さらには季節性などの興味深い周期現象について、解説いただいております。
- 15巻1号から、表紙のデザインを一新しました。岩崎編集委員の発案で、リズムや周期性などをイメージしたアートを表紙に採用することにしました。記念すべき本号は、本学会名誉会員の千葉喜彦先生の作品「夜行性」を使わせて頂きました。ご存知のように、千葉先生は時間生物学者であるとともに、アーティストとしても著名で、その作品は数々の賞を受賞されておられます。特に時間を意識された作品を数多く製作されておられ、それらの一部は先生のホームページ (<http://www.cable.ne.jp/~y-chiba/index.htm>) で紹介されています。
- 本年から、本紙の総説等の体裁も一部変更いたしました。文献番号を従来のアルファベット順から引用順に変更し、また本文への引用の表記も変更いたしました。詳しくは執筆要領をご覧ください。
- 今年は、時間生物学会関係の学術集会がたくさん予定されております。7月にはGordon Conference、8月には生物リズムに関する札幌シンポジウム、本学会も共催としている欧州時間生物学会、10月には本学会の学術大会がアジア睡眠学会、日本睡眠学会と合同で開催されます。これらの学会活動は日本の時間生物学が大変活発であることを物語っています。これらの学術集会を更なる糧として、会員の皆様がますます発展されますよう、心より祈ります。

時間生物学 Vol. 15, No. 1 (2009) 平成21年5月31日発行

発行：日本時間生物学会 (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsc/index.html>)

(事務局) 〒162-8480 東京都新宿区若松町2-2

早稲田大学先端生命医科学センター 柴田研究室内

Tel&Fax：03-3341-9815

(編集局) 〒700-8530 岡山市北区津島中3丁目1-1

岡山大学大学院自然科学研究科 生物科学専攻内

Tel&Fax：086-251-8498

(印刷所) 名古屋大学消費生活協同組合 印刷・情報サービス部